

が使用、赤外線のリモコン・キーパッドで画像情報を検索する。

ノルバックの画像入力装置IPSは、タブレットを使い電子ペンで画像を入力する、テリドン・システムに不可欠の装置である。三万二千色のカラー表示で微妙な色合いを表わせるし、自動作図も可能。文章、図表、絵などを自由に入力し、編集してページ（一画面に収めた情報）を作り、それをコンピュータに記憶させるシステムでは、最高の機種として、ペー・クリエーション・サービス会社（画像作成会社）などに売られている。

■ノーザン・テレコム



「ディスプレイ・ホン」

全世界に三万三千人の従業員と五十数か所の工場をもつ多国籍企業ノーザン・テレコム・リミテッド（NLT）は、通信機器ならデジタル交換機から伝送機器、屋外通信施設

から電話の受話器に至るまで、ありとあらゆる種類の製品を提供できるカナダ唯一のメーカーである。ノーザン・テレコムの最も得意とする分野は、デジタル電子交換機。一九七六年に世界最初の局用デジタル電話交換機DM S1を発表して以来、十萬回線の電話を処理できる機種（DM S100）など一連のDM Sシリーズを発表してきた。

DM Sは、電話交換をデジタル化し、コンピュータのプログラムで管理するもので、従来のリレー式交換機と比べ、処理速度、回線容量が抜群にすぐれ、雑音も少ない。また音声以外にデータも送れるため、電話網に新たな機能をつけ加えることになった。発売以来、年々売り上げを伸ばし、米国を中心として世界各国で使用されている。

同社のPBX（私設構内交換機）、SLシリーズも評判がいい。容量五千回線のSL1は、世界で最も良く売れているPBXだ。SLシリーズは音声とデータの両方に使用、合計五十六キロビット（同期）のデータ・ターミナルをサポートできる。

また、同社の「ディスプレイ・ホン」は、電話とデータ・ディスプレイを結合したもので、電話をしながら文字や図表を相手のテレビ画面に送れるという。明日のオフィス「機器のひとつである。

■スパーク・エアロスペース

米スペースシャトルに搭載され、実地テストにもすべて合格した遠隔操作システム（宇宙の腕）の制作で脚光を浴びたスパーク社は、人工衛星やそのサブシステムの開発ではカナダの存在で、カナダでこれまでに打ち上げられた衛星すべてのサブシステムを設計製造し、アニ



「宇宙の腕」

クDでは主契約会社となった。また去年はブラジルの通信衛星システムを受注、さらに中国の衛星地上局アンテナの改造にも参加するなど、国際的な活躍が目立っている。

一九六八年、航空機メーカーのデハビランド社を買収して発足し、以後RCAの一部門など数社を吸収しながら急成長してきた航空宇宙、通信、防衛機器メーカーである。

■ダイナロジック・インフォテック

ダイナロジック社は、マイクロプロセッサ、フロッピーディスク、電子郵便端末機などの研究、設計、製造に九年の実績をもつ会社で、マイテル社のコープランド社長が会長をつとめるきわめて研究開発志向の強いベンチャー企業である。



「ハイペリオン」

昨年六月、米アトランティック・シティで行われたCOMDEXコンピュータ・ショーで、新開発の高級パソコン「ハイペリオン」を発表した。「ハイペリオン」は、IBMコンパチブルとしては世界初のポータブル・コンピュータで、IBMの二倍の記憶容量、高解像ディスプレイ、ソフトパッケージ（MS・DOS、財政計画システムなど）をもっている。多忙な管理職にもってこいのパソコンとして注目されている。

■科学技術振興事業団(NRCC)

首都オタワとハリファックスおよびサスカトゥーンに十一の研究機関において独自の研究を行なうほか、大学や企業の研究開発を助成するNRCCは、カナダにおける科学技術研究の中心的存在である。

NRCCは、一九一六年、国内天然資源の活用、産業技術の向上、測定基準の維持・改善、公共事業で用いられる材料の品質改善、科学技術研究の育成——など、カナダにおける科学や産業技術の研究開発を促進するために創設された。

その研究分野は、通信、エネルギー、環境、食品、保健、海洋、社会開発、宇宙・衛星、運輸——と、広範囲に及ぶ。連邦政府、州政府、地方自治体、産業界、その他の公的あるいは民間機関の依頼を受けて、またこれらの機関と協力して、特定の研究に取り組むが、その中心はカナダにとって最も重要と思われる分野における基礎的あるいは実験的研究にある。NRCCはまた、大学や企業の研究開発を助成し、あるいはNRCCである程度まで進めた研究の継続を民間に依託することもある。

NRCCが進めてきたプロジェクトとしては、ベッドフォード海洋研究所（ノバ・スコシア州ダートマス）との協力による海洋データ快速測定器の開発、NASA（米航空宇宙局）との宇宙科学研究協力、新型輸送機関の開発、オイルサンドからの石油抽出技術の開発、などがある。